

ふるさと探訪

第75回 夜討ヶ窪の山櫓



「伊予の三湯」の一つに数えられる本谷温泉から、さらに大明神川沿いの道を進み、夜討ヶ窪の集落に入ると、樹高約16^{メートル}・幹周り約7^{メートル}もある山櫓の老木が、木立ちの中にひっそりと佇んでいます。

標準和名を「アラカシ」という一般的に自生している種ですが、この櫓はその中でも県下最大の巨木です。数百年の歴史を刻んだ主幹の根元部分は大きく空洞化し支柱が施されていますが、梢では枝葉が力強く繁茂しています。

河之内地区にはこの山櫓にまつわる伝説が数多く残されており、この木の根元に祭られている若宮が戦国時代の首塚だというものもその一つです。

取材を終えて帰ろうとした時、幹に開いた洞の奥から這い出た冷気に首筋を撫でられたような気がして振り返りましたが、蝉時雨のなか夏の日

▶主幹はコケに覆われており過ぎた時間の長さを思わせる



樹勢を維持しているのが不思議に思えるほど、漆黒の広がる空洞は大きい

差しを浴びた山櫓が悠然とそびえているだけでした。